

研究協議（班別協議）

（ 1 ）班

関係機関（ 小学校 ）

協議テーマ（ 自尊感情に配慮した通級指導の在り方 ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

解決策

通級担当 できた楽しかった→通常学級へ戻れるように

Point !! 通常学級の担任との情報交換 朝に情報交換してから連絡

- ・行事とタイアップも考えて（ex 音楽リコーダー）
- ・困り感に寄り添う支援 ビジョントレーニング
- ・ボディ活動・・・他者意識も
- ・会話（コミュニケーション）をする。
- ・何が困っているのかを探りながら（担任からの情報）

回数・量を実感できるようにしている。（グラフ・表）

できたよマップ

できるよマップ

自尊感情を育てるには

担任教師に褒めてもらう

皆の中で発揮できる場面を作る。

友だちに認めてもらう。

家では・・・お手伝い 認めてもらう。

- ◎通級に来た時、ビジョントレーニングを通級学級の子にも
- ◎学級担任に知ってもらう
- ◎保護者との会話の場をもつ

↓

本人の見える形で伝える。

人間関係ができてくると苦手なところを伝える。

教科の中に自立活動を組み込んでいる。

本人と◎落ち着いた時、解決法を一緒に考える。（LD、ASD、HLD など）

周りに◎周りの子に対応策を教える、伝える→受け入れてもらえたことで安定する。EX 5年自然学校前・・・担任の教師と共に周りの子に理解してもらおう。（周りの子に伝えることを保護者が嫌うこともあった。）

↓

漢字苦手→視覚支援を入れながら

カッとなる→落ち着く方法→訴えること

おまじない

失敗体験「あ～、も～、あかんやん」言われ続けた体験 →

パニック

成功体験を繰り返し積み重ねる。←一緒に

交流学級の活動に参加できる機会を持つ。

通級の授業を保護者に参観してもらった。教育相談等で実態や必要性を伝える。他機関を伝えると、情報が入ることで理解 UP。

自分たちで計画→実施

※通級指導を進めても、消極的な家庭 ⇔

家庭より希望がある場合もあるが、保護者に差がある。

全家庭に「通級指導とは」手紙やお知らせ・・・教委から、入学時に校長から。

研究協議（班別協議）

（ 2 ）班

関係機関（ 小学校 ）

協議テーマ（ ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

- ・児童の実態 特支対象だが保護者の理解を得られない。 親族の目
自閉症通級→感覚面・運動面→「ムリ」というが必要
アセスメントをとり、適切な自立活動をする必要性
4年生から自己理解必要
- ・通級に入るきっかけ
A市 教育センターへ相談（就学前5歳児健診 etc）
↳支援級 OR 通級
B市 支援センター近くにある放課後デイサービス
- ・通級のあり方 同室、取り出し、放課後通級（最大週2h）
行事への参加の仕方（なわとび、リコーダーetc）
- ・保護者支援 保護者との教育相談（センター等）、検査へ行くまで
理解を得られない。支援＝特支と話が伝わっている。
他機関と連携→学校の情報も共有が必要
- ・学校内 特別支援の意識を変えていく必要性
指導補助員（A市）、週数時間→「できた」自尊心
大学生は支援が手厚いが自分が申し出ないとうけられ
ない。学校では出来ないことを外部へお願いする。
検査→指導につながりにくい。学校のシステムに合わな
い。検査→担任にも具体的支援方法を伝える。→褒める
別室指導だけでは・・・同室指導、先生宛に通信を出す。

解決策

- ・自尊心 保護者と児童との思いのズレ
アセスメントをとり、適切な支援を実施
B市は、多様に選択できる。（ボウリングや料理教室 etc）
障害受容と自尊心は両立できるか。
→自分の特性の良い所と悪い所を理解させる。
特性理解 得意な所と不得意な所をはっきりさせると自尊心を
高めるのに役立つ。
「できた」という体験 ゲーム感覚で、月間ランキング
達成感を持たせることで子どもが変わる→保護者へも。
将来を見据えた時 障害理解
自己決定、自己選択が必要→将来につながる。
子どもが出せたものを周りが共有する→中学へ引継ぎ
切れ目ない支援の連続性や周りの理解

研究協議（班別協議）

（ 3 ）班

関係機関（ 小学校 ）

協議テーマ（ ）

名前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

通級について

A市 通級担当が観察→専門委員会

言語通級・・・言語に課題

着席、身だしなみ、切り替え

子ども1人あたり週1時間

入級基準・・・情緒 ドクター、判定員

言語 事前相談 構音、言葉、ひらがな、50音

B市 市の発達支援センター

自校3日、巡回2校（丸1日）週に1度

基準・・・支援委員で判断、専門機関にかかっている。

コミュニケーションの時は2名

通常学級でやっているので課題を明確

～ができたなら卒業 できた感 まずできる!!□

学期の初めに本人・保護者と約束 振り返り

C市 4校

基準があいまい？ 支援学級の前？

高学年になると難しい？

診断を受けていない。学習+コミュニケーション

検査を受ける機関が少ない ハードルが高い

解決策

（基準） 各市の通級を受ける基準はどのようなのか

・専門機関とのつながり

・担任だけの判断ではなく・・・特性をつかむ

・検査からわかることがある・・・その子にあった指導方法

・3月で毎年確認する。検査は最初だけ

（検査） ・検査だけでは出ない場合もある。でも困り感ある→違う検査

・自校で検査できる（B市、C市）

・検査器具の配置問題

（自尊感情）

何かできるものを・・・子どもがこうすればできるということがわかる。

周りもその方法でサポートを！ その積み上げが自尊感情に・・・

サポートファイル

個別の指導計画・自立（コミュニケーション）

学力補充とは

指導の記録を生かしていく

研究協議（班別協議）

（ 4 ）班

関係機関（ 中学校 ）

協議テーマ（ ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

解決策

★保護者の理解 保護者と学校をつなぐ役目の重要性
取り出しの抵抗感
自尊感情が低いから
周囲の理解を深める必要性

★入級生徒について

★LDの生徒の対応 どんな力をつけられるのか

★指導内容について 学力保障？ 自立活動？

★進路に向けての取り組み どのような進路を選ぶのか

★校内の理解 通級への理解

★人事の問題 専門性の問題
転勤で通級担当が変わる

研究協議（班別協議）

（ 5 ）班

関係機関（ 中学校 ）

協議テーマ（ ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

解決策

各9校より

1 通級を受けさせたいが登校する日と通級者とのタイミングが合わず読み書き苦手な子、小学から通級を受けている。交流ではできない場面が多く自分にもできる場面が多いことを体験させたい。やったらできるのに、でも定着しない。

2 自尊感情を高めることがうまくいったのでは・・・

「無理やし」といった時

期待にこたえたく頑張っていたけど最後まで付き合ってくれない。

途中まで頑張っていたことを認めてもらえない。

教師はみんな初めはやればできるって言うものと言い放つ。

自尊感情を取り返すのはみんなの中ででないことと認めたことにならない。

教師がみんなの中でその子の頑張りを認めること。本気で凄いと思うこと。学力的なことを認めるのではなく、みんなとは異なる良さを認めて

やりたい。自分の好きなことを発表させる。テーマは自由ポスターにし

て残す。

好きなことならとことん知っている。強みをみんなの中に共有させる。

鉄道オタクが実は他にもいたことを知って存在感ができています。

3 今日はあるの？という確認をしあうようになっている。効果はある。

本来、受けたほうがよさそうな子への対応が課題（週1日）

4 4 中学を巡回 LDの子への対応に悩んでいる。

通級で、アルファベットがようやくわかった喜びがあっても全体への課題には対応できないから写すだけになっていてモヤモヤ。

5 大学で学んでおられる読み書き苦手な子、得意な部分を見極めること。

手話を一番よく覚えていることがみんなの中で評価されている。

友達のいいところを発表する場面の利用。

6 補充学習だと思って始め多くの希望が出る。抜き出されることには抵抗

あり。複数で抜かれることには抵抗なし。行けば良い時間になり充実感

はある。本当に行ってほしい子に行ってもらえない。親子共々に抵抗が

ある。アホやからというのはなくなっている。できないことをできるよ

うにしているという認識になっている。

7 前年度から引き継ぎをしつつ教科の補充中から自立なものへと移行し

ている中、抜き出す生徒は減ってきている。よく泣く生徒が少しずつ

減ってきている。クラスでのサポートも多いので通級のみではないかな

自分で何かをしようとする意欲が出ると良いのでは。

8 受けて欲しい子が受けていない。情緒不安定な子にいかに関わるか。

発音を大きめに褒める。ペアワークでできたことを共有する。

9 特支&コーディネーター 特支でも自尊感情は大切。支援者による実態把握が大切。子どもに自己理解ができていないので大人が何を必要なのかよくわかっていること。通級では限られた時間なので、学年や学校に支援の輪を広げること。担当者の思いを共有してもらいたい。

「社会で通用しない」なんて言われる。子どもには罪はない。

褒めちぎること！天才！と行っても子どもは否定しない。

まだ磨かれていないダイヤモンドだ。磨き方と知らないだけだから一緒に考えよう。

・通級は中途半端な場所にある。LD・ADHD等、困った人がいたら柔軟に対応しようとしている。リクエストがあれば、対応したいという主旨通級という言葉に反応するなら書類なしで抜いている。夏休みに抜くのは可能(時間的にはクリアする)→夏の課題を仕上げるのにかなり利用がある。子どもはクラスで担任の先生に褒めてもらいたがる。担任との連携は大切。

・コーディネーターを介さず通級者と担任が繋がることも大切。

コーディネーターは授業予定をしっかりと組むことが大切。

担任 & コーディネーターにメモを残している。

・通級に行きたくないという子にどう関わるのか？

本人の意志を大切にす。みんなの勉強を見にきたよ！というスタンステスト範囲も見やすい形にして用意するとほとんど取りに来る。

三者懇にも入っている。複数OKの子は放課後に集めやすい。冬場は難通級の子は部活動を抜けることをOKとしている。

・部活のしんどさと勉強のしんどさでどちらを取るといわれると部活という子には放課後抜くのが難しい。

・個別で取り出すのは原則一人のことが多い。

得意なところを教えられるようにすると複数でもなんとかなる。

・自分の気持ちを作文にするには

パソコンで習うてる子もいる。→機器を使うと楽になる。

音声入力で取り組んだらうまくいかない。

作文を書くことでの成功体験を積み重ねる。

ワードの校正機能を使う→手書きを入れると効果あり。プレバトの俳句の先生のように

・小学校からの引き継ぎを丁寧に行う。新規の子の理由の確認

・通級指導のノートを子どもに返して担任に提出→通級者へ

・A市は保護者とメールでやりとり(承諾を得て)

2学期中に小6の子の様子を見に行き保護者とも接点を作る。

4月は子供も忙しい。家庭訪問をすることもある。3月中に決めておく。

中学に入ってから様子を見てからというパターンよりは不安が勝つので細々とでも良いから続けて欲しいことが多い。

・学年末に一度まとめて保護者に伝えている(B市)。あまり返信はないがその返信が参考になることが多い。

・教科や部活など多くの人に関わっているので通級の子の情報も共有する。

研究協議（班別協議）

（ 6 ）班

関係機関（ 特別支援学校 ）

協議テーマ（ ）

名前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

◎通級なくてもホールドできる体制づくり。支援のいる子どもは多い。
学習に向かえる土台づくり。ユニバーサルデザインのうけいれ。
通級・特支級との違い。
自立活動・・・できないところにアプローチ、かえって逆効果になってしまう。嫌になる。
ボードゲームを取り入れて勝負のあるゲーム、こだわる子
友達同士、気づき、友達が欲しい。集団で受け入れられる。

通級とどのように関わっているか

- ・気持ちのフォロー、本人のそのままを受け入れてくれる、自尊心 up
教室に戻ると、気持ち down。居場所があると本人の気持ちも安定
- ・小中と話すことがある。心のよりどころとなっている。どのタイミングで
誰に質問したらいいのかわからない。→それができる安心感
- ・通級担当が集まる会、自尊感情についてクローズアップして話し合った
ことはない。
- ・小中グループ研に CO として参加。中の不登校増加が気になる。
- ・月 1 回通級連絡会。高校通級にも自尊感情に特化した話は今の所ない。
- ・保護者の受容 地域・学校・周りの風土
- ・どのクラスもどの学年もどうホールドしているか
通級も目立つ子を取り出すのではなく全体でどう関わっていくか
- ・通級が居場所になっている。喜んで行っている。◀通級受けるか、受けな
いか「行っても変わらない」全てを通級で賄えるわけではない。
通級という場所だけに。

解決策

- ・現在、学力保障の場という捉えの学校・・・まだ多い。
→学校自体が意識を
- ・通級の需要が多くまかなえきれず待機
→取り出しで良かったところを通常学級で生かす。
そうしないと、どんどん支援のいる人が増えていくだけ。
- ・土台ができて通常学級で過ごしていける。という通級のゴール。
→ここまできたら、独り立ちして手を離していく。
- ・小グループで話しをする場の設定
→友達同士の気づきを引き出す。子ども自身の困難さ。
- ・支援グループ SST カードを使用。I pad アプリ。人間関係のやりとり。
- ・通級担当のノウハウを広げていく。
→学級で生かしていくことができるように本人の特異を認めて周りに伝
える。
- ◎自尊感情を高める（自立活動）通級はそのためにはいい場
学習がわからない←学習の方法、つまずきの原因を試行錯誤
学習がわかるようにすることも大事←子どものやる気を引き出し学級で取
り組める力をつけていきたい。
- ・高等学校については
学力補充の時間は別に確保。補習として
通級は自立活動が必要な支援、周りの人間関係、就労につなぐ役割

保護者・教師は通級が何をするとどこか知っているか？

どうやったらわかるかという方略

特支の発想 教師がどう変わるか・・・

アイデアを出す発信者としての存在も大切

支援学校高等部グループで人間関係作り、受け入れられる中で自分を出して
いく。

中高・・・連携、県立、市立で

研究協議（班別協議）

（ 7 ）班

関係機関（ 養護・特別支援学校 ）

協議テーマ（ ）

名前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

解決策

◎拒食症→体力が落ちて休学、進学が難しい受け入れる教師の意気込み。養護教諭が特別支援学校と連携している。

・A 高校の支援・・・受け入れを1 2月から考えた。個別の支援計画・指導計画。2・3月にケース会議、場面ごとの対応

・合理的配慮の研修

・英語が得意

◎B 高校より連携シートを持っていった。学力が心配

・学年会に出席させてもらった。各クラスから上がってきた人

アセスメント（学校支援として）中学から情報なし

・LD?対応の具体例 感覚過敏?→個別支援

窓口 相談 進路 困り感のある子→退学が相談へ

◎大人の支援(幼・小・中)、進路相談支援(公立・私立)

↓

・どのようにつながるか 就労・進学

・小中高で見逃されていた子への支援

・高等学校・・・進学、大学の後、将来像が見えない。

・市立、県立の特支校での連携

・ADHD→ミスマッチ 大学へ先送りの現状

◎支援をすれば入れる。行動がゆっくり。

・キーマンを作る

・学校間連携

・障害受容 本人

・アセスメント 実態把握→具体的な支援

・担任の先生との関係。相談できる関係

・生徒指導上の会議に参加

・小中高の情報共有

・市立と県立の連携強化

・学習のしんどさ、文字を大きく

その子の学びやすい2年3年時のとりくみを

◎通級に対する理解は・・・

- ・通級がひつようかどうか（判定は？担当？市教委？）
- ・制度は？ 市町によってちがう 通級担当によって？
- 学力補充？SST？

制度の理解 子どものいきいきと通級するか
周囲のとらえ方 ⇒ うしろめたい気持ちでいくのかの違いは大きい

◎通級・・・安心できる場

- 苦手なこともこうしたらできる（本人の困り感の軽減）
- できたという満足感、達成感
- 自分のことが理解できる場

◎通級をすすめる上で大切なこと

①対生徒への理解（広報的に・・・）

- たて・・・幼小中高のつながり
- よこ・・・市町・県・各関係機関などのつながり

②情報の発信（広報的に・・・）

- この先どうなるか
- 今必要な支援ができるのか
- 方向性を示す
- 親も子も教師もわからないから障害受容ができない
- 高校から「今ごろ障害と言われても・・・」発言

〈通級をすすめていく中で・・・〉

◎センター的機能

- 今まで・・・特別支援教育の推進
- これから大切にしていきたいこと・・・医療福祉とつながる（横の繋がり）

◎それぞれの立場の中での気づき行動→知識や勇気がいる

◎受けとめる気持ち・体制づくり

◎情報発信

◎保護者へのかかわり

- （親の思いも大切に。細かく長く市町を巻き込んで切れ目ない支援）

◎理解・啓発（保護者、地域、社会等へ）

- ・オープンスクール
- ・情報発信の仕方の開拓が必要
- ・研修・交流など

◎学校の中や先生方の意識改革

●子どもたちにとって何が必要なのか、その子の人生にとって必要なことは何かを考える支援を！

- ・進路選択の中で子どもたちの学びを考える。
- ・「なりたい自分になる」高校・高等部で考えていきたい支援

研究協議（班別協議）

（ 8 ）班

関係機関（ 高等学校・カウンセラー ）

協議テーマ（ ）

名前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

- ◎面談指導で自尊感情を高めるように話をしているが、なかなかうまくいかない。
- ◎通級希望をする本人、保護者より手を挙げた人から実施している。面談のみ行なった生徒もいる。選択科目、選択の指導について面談各生徒の希望を聞きながら生徒の特性（目の動き）を見ながら丁寧に信頼関係を取りながら聞いていくことで本音や特性を見過ごしている場合があることに気づいた。
- ◎通級指導を休まず受けているが自尊感情は低い。
- ◎どの生徒も自尊感情は低い。面談等を行いながら自尊感情を高められるような指導をしている。
- ◎通級指導について校内では孤独で悩んでいることもある。しかし、今回の事業で多くの横のつながりを増やせていることや県教委より多くの資料等を提供していただくことで徐々に指導が有効に行えるようになってきた。指導する立場の教員たちの資質の向上、校内の教員の意識の変化も大きいと思う。
- ◎通級は何をやっているのかブラックボックスのようになってはいけない。今日の研修会は、全職員で取り組んでおられるのはすごいことである。
- ◎特別支援教育に興味を持っておられる先生も多いのではないかと。成功体験が積み上げられれば、もっと高校でも広がっていきけるのではないかと。
- ◎高校では障害に対してなかなか理解してもらえないことが多い。保護者の思い、本人の思いを聞いてもらえる場がすくないのではないかと。
- ◎生徒の障害特性について理解することで、本人の理解も高まり自尊感情を傷つけない指導ができるのではないかと。

解決策

- ◎窓口になられる先生がどう保護者・本人に向きあっているか。
- ◎助けなれている生徒や保護者に対してどう対応・対策ができるか。小3～小4できちっとさせることができれば、高学年、思春期にうまく乗り越えることができるようになることが多い。保護者もなかなか悩みを打明けることが少ない。親が元気になれば子どもも元気になる。
- ◎若い先生には若い先生の立場で頑張れるような環境をつくる。例えば面談などに若い担任先生も一緒に同席する。ベテラン先生の面談している様子を見て、生徒の対応など新たな発見ができることがプラスになることがある。
- ◎生徒に対応するのが担任教員だけでなく、その他の教員もどれだけ関わっているのかで生徒に与える影響は大きい。
- ◎通級事業が始まったので取組について注目してくれるいい機会が校内に増えた。

研究協議（班別協議）

（ 9 ）班

関係機関（ 教育委員会 ）

協議テーマ（ ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

解決策

◎A 市

本来

- ・支援を必要としている児童生徒がとても多い。
- ・各学校教員の通級に関する指導理解→更なる啓発
- ・切れ目ない支援

対象児童・生徒が多い 教育支援委員会で判断すべき。
(支援委員会の時期、回数)

教育の理解、保護者の理解

◎B 市

- ・ドクター等関係者による毎月会議。各学校からの相談、審議数が多い。学校で対応（合理的配慮等）できるのではないか。通級はどうあるべきか
- ・学校内での体制→共通理解、コーディネーター会議 年4回

情報の混乱、正しい情報交換

家庭との連携

◎C 市

- ・通級利用に関する相談→校内で処理（学校長の判断） 支援員が他校へ
- ・教員の共通理解は課題
- ・サポートファイル・中高連携シートの一括管理、成人支援も

◎D 市

- ・保護者の相談窓口がさまざま
- ・社会福祉として、関係機関との定期的な会議
- ・保護者と学校現場の現状理解

◎E 市

- ・幼児検診
- ・通級いっぱい 判断基準をどうするか
- ・通級指導を受けたことが家庭につながらない。
- ・サポートファイルはあるけれど、それに合った支援ができていないのか。機能しているのか。

研究協議（班別協議）

（ 10 ）班

関係機関（ 関係機関 ）

協議テーマ（ ）

名 前（ ）

司 会（ ）

記 録（ ）

発 表 者（ ）

課 題

1 ネットワーク

保護者の理解が得られない。連携にのっていない子ども
学校と福祉の壁

2 障害受容

親が受け入れられない。理想の子ども、「障害」という言葉の重み

3 ユニバーサルデザイン

通常の授業では限界

解決策

1 連携ノートに載っていない場合でも何かしらの所（口頭）でも情報交換が
重要 悪いことだけではなく良い部分（こういう対応が良い）も引き継
ぐ。サポートファイル等への偏見をとりのぞく。できるだけ早い段階か
らツールを利用することへの偏見

2 手帳があるメリット、就労への見通し等の情報を伝える。
いろいろな人による情報提供
関わりのある大人への心理教育、情報提供